

## 第一次国共合作

No.167及びNo.177のつづきである。

- 1) 1919年10月、孫文は中国国民党を組織、孫文は1917・21・23年の3度にわたり、広州の広東を中心に【1: \_\_\_\_\_】(革命政府)を樹立し軍閥政権と対抗しようとしたが、内紛で3度断続した。】ここまでNo.167で既習

【1】は孫文の死(1925)後、閩東国民政府に改組された。→後掲3)へ  
この間の1921年に中国共産党が結成された。

孫文は中国国民党を基盤に革命運動を推進しようと考えていたが、北京の軍閥政権を打倒するために【2: \_\_\_\_\_】と合作(=協力)することを決断した。ソ連の援助を受け入れて顧問を招き、1924年、国民党を改組して組織の近代化をはかった。このとき、中国共産党員が党籍を持ったまま個人として中国国民党に入党することを認めた(逆はダメ)。これを【3: \_\_\_\_\_】という。国民革命の主力を国民党と規定するコミンテルンの強い指示でこうなったとされる。この合作は対等ではない。スローガンも、1906年発表の「民族主義、民権主義、民生主義」(三民主義)から「連ソ・容共・扶助工農」の新三民主義に発展した。

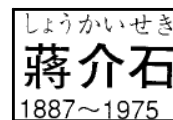
- 2) 1925年3月、これからという時に孫文は亡くなった。臨終の言葉は「革命いまだ成らず」とされる。孫文の死の2ヶ月後、1925年5月30日、【4: \_\_\_\_\_】ごさんじゅうじけんを契機として、大規模な反帝国主義運動が起きた。

**五・三〇事件** 上海の日本人経営工場(在華紡 No.177参照)で、同年2月、中国人労働者が待遇改善を要求してストライキ。5月15日には上海で労働者が射殺され、抗議運動が高まった。5月30日には、学生・労働者のデモにイギリス警官隊が発砲し、多数の死傷者が出たことを機に、全国的運動に発展した。中国国民は、列強の横暴と軍閥政府に対する怒りを更に強くした。

- 3) 孫文の意思を受け継いだ国民党は、孫文が広州に建設し3度も断続した革命政府(閩東軍政府)を、反帝国主義運動の盛り上がりの中で、1925年7月、【5: \_\_\_\_\_】(あるいは広東国民政府)に改組した。これを安易に単に「国民政府」と書く教科書もあるが、1927年に蒋介石が南京に樹立する南京国民政府を普通は国民政府というので、広州を省略してはならない。

- 4) 1925年、中国国民党は【6: \_\_\_\_\_】を編成した。国民党1全大会(1924)決定に基づき、広州郊外の黄埔軍官学校の学生を中心に編成された。1926年、蒋介石が総司令となる。

蒋介石の蔣の文字はワープロソフト用語でいう「環境依存文字」である。拡大すると右の通り。



- 5) 1926年7月、ついに【7: \_\_\_\_\_】(ほくぼつ)始まる。まさかとは思いますが北閩と書いてはいけません！これ以降、煩瑣を避けるため、中国国民党を単に国民党と、中国共産党も単に共産党と書くことにする。孫文の死後、国民党の軍事指導権を握った【8: \_\_\_\_\_】(=国民革命軍総司令官)の指揮下で北伐軍は広州を出発した。軍閥の封建的な支配下で抑圧されていた民衆は北伐軍を歓迎し、共産党員の指導する農民運動に支援されて順調に進軍。年内に武漢を占領した。

- 6) 1926年、蒋介石率いる北伐軍が武漢を占領すると、12月には汪兆銘らの国民党左派が共産党と提携、1927年1月、広州から武漢に遷都して国共合作の政權、武漢国民政府(首班は汪兆銘)が成立した。ところが、1927年4月蒋介石ら国民党右派が上海クーデタを起こし、南京国民政府を樹立したので政府が武漢と南京に二重に存在して対立する状態となる。その後、経済不安や土地革命をめぐる共産党との対立によって、武漢国民政府も共産党を弾圧して1927年7月に国共分離を行い、同年9月南京政府に合流した。

- 7) なお、国民革命とは、1925年から28年にかけて、蒋介石の国民革命軍が北伐によって北方軍閥を破り、中国を統一した革命のことを指す。

## 上海クーデタ

前掲6)の上海クーデタについて詳述する。

- 1) 北伐軍が上海に近づくと共産党の指導する労働者が自ら上海を解放した。共産党の影響力の強さに驚いた帝国主義列強と【9: \_\_\_\_\_】の求めに応じて、蒋介石は重大な決断を下した。

- 2) 1927年4月12日、蒋介石の軍隊が無警戒の共産党員多数と支持者の労働者を殺害した。これが【10: \_\_\_\_\_】(四・一二事件、国民党は「清党」と表現)であり、地方にも及んだ。犠牲者総数は不明であるが数百から数千という規模で、中国共産党は甚大な打撃をうけた。【11: \_\_\_\_\_】1889-1927はこの時張作霖に捕えられ処刑された。これによって次のことが起きた。

①第一次国共合作は崩壊した。 = 国共分裂 <<第二次国共合作は1937年>>

②蒋介石は、1927年、南京に【12: \_\_\_\_\_】(あるいは単に国民政府)を樹立、1928年に主席に就任。蒋介石が中国の事実上の元首となった。南京は省略してかまわない。国民政府と言えば通常これを指す。

蒋介石は地主・財閥・帝国主義諸国からの評判を高めた。この蒋介石その人が、1936年の西安事件により、1937年に再び国共合作(第二次国共合作)に同意するとは誰が想像できるだろうか。

南京はこのまま1937年の日本軍による南京占領まで中国の首都だった。日本軍に南京を占領された国民政府は、漢口を経て1938年、重慶に首都を移し(～46年)、抗日戦を行った。

- 3) ここで、非常に複雑な山東出兵についてまとめておく。上海クーデタのため、中断していた北伐が再開される以前であるが、1927年3月24日に南京事件(1937年12月の南京事件とは別事件)、4月3日に漢口事件が起こって、日本人の生命財産が侵害された。戦乱が北部に拡大する可能性が強くなり、1927年5月、田中義一内閣は居留民保護を名目に山東省に出兵した(第一次山東出兵)。1928年4月には南京を出発した第2次北伐軍が山東に達すると第二次山東出兵が行われ両軍は対峙した。5月3日午前、北伐軍兵士による日本人家屋ならびに日本人への、集団的かつ計画的な、略奪・暴行・陵辱・殺人事件である済南事件が発生した。5月5日、済南近くの鉄道駅で日本人9人分の惨殺死体が日本軍によって発見された。

こうして北伐軍と済南で軍事衝突がおき、5月中に増派が行われた（第三次山東出兵）。衝突はいったん収まったものの、5月8日、軍事当局間の交渉が決裂。日本軍は司令部と城壁に限り、砲撃を開始。5月11日、日本軍は抵抗なく済南を占領した。中国側によれば、その際、中国軍民に数千人の死者が出たとされる。

1929年には山東全域から日本軍が撤退した。

- 4) 1928年4月 上海クーデタのため、中断していた北伐が、列強の支援で再開された！  
蒋介石は兵を進め、日本に支援された軍閥の首領、張作霖を追い出し、6月には北京を占領。12月には北伐完了。長かった軍閥割拠の状態はようやく解消された。
- 5) 1928年6月4日、関東軍（中国東北地方に置かれた日本の陸軍）の一部が、蒋介石の北伐軍に敗れて奉天に帰還する途中の【13: ちょうさくりん 1875-1928】を、蒋介石軍の仕業と見せかけて列車ごと爆破して殺害した。必ずしも関東軍の命に従わず、蒋介石に敗れ30万とも言われた部下を率いて奉天帰還をはかる張作霖は、関東軍にとってはもはや邪魔者ではなかった。＊。目的は関東軍による中国東北地方の直接支配（つまり「満州国」の早期建国）である。真相はアジア・太平洋戦争終結まで国民には公表されず、当時は「満州某重大事件」と呼ばれた。  
奉天軍閥の首領、張作霖は日本の支援を受けて東三省を実質支配していた。これを倒せば関東軍は東北地方を制圧できるはずだった。ところが、息子の【14: 張作霖】の行動は全く想定外だった。彼はライバルの暗殺などの強硬手段を取って軍閥をまとめ、あえて蒋介石の指揮下に入ると同時に反日政策を推進したので、関東軍の思惑は完全に外れた。目的を達せられないどころか、むしろ状況を悪化させてしまった関東軍は、1931年に、さらに過激な満州事変を起こすことになる。張学良は、1936年に西安事件を仕組み、蒋介石をも動かして第二次国共合作を実現させた。  
※ 張作霖は欧米資本を引き込んで南満州鉄道に対抗する鉄道路線網を構築しようとしており、そうなれば南満州鉄道と関東軍の権益を損なう事は明らかだった。日本政府はあまり深刻に受け止めていなかったが現場（広東軍）にしてみれば重大な問題だった。この事件には日本の支配層の東北部政策での温度差が現れている。  
しかし、日本政府はこの時点ではこれ以上の事件の拡大を望まなかった。【15: 田中】首相は、昭和天皇に対し、徹底した真相究明と関係者の処分を行う旨上奏したが、陸軍内の抵抗で関係者の処分を断念し、関東軍は爆殺に無関係である旨の上奏を行った。事態の真相に気づいていた昭和天皇は田中を叱責し辞任を求めた。7月2日、田中内閣は総辞職した。これは、天皇の意向により内閣が総辞職した唯一の事例である。
- 6) 排除され弾圧の対象とされた共産党は、農村部に拠点を作り、土地改革を行い、紅軍を組織して国民政府に対抗した。  
1931年 江西省の【16: 毛沢東 1893-1976】に、毛沢東 1893-1976 を主席とする【17: 中国共産党】を樹立。  
しかし、国民党軍が5回にわたって激しく瑞金を攻撃したため、瑞金を放棄。  
1934年 【18: 中国共産党】めざして、12500キロの大移動を敢行した。  
これがいわゆる「長征」（大西遷）である。12万人が3万人に減ったという。
- 7) 国民政府は、【19: 孫文】の回復に成功した。保護関税により工業を発展させることが可能となった。なお、国民政府は浙江財閥と深いつながりを持っていた。孫文の支援者で浙江財閥の創始者である宋嘉樹の娘は要人の妻となった。宋靄齡（→実業家・政治家の孔祥熙婦人）、宋慶齡（→孫文夫人）、宋美齡（→蒋介石婦人）は宋家三姉妹と呼ばれる。

## 2007 法政大学（抜粋・改変）

実問ではすべて選択肢があり記号で解答する。

1914年に始まった第一次世界大戦により、アジアの国際関係は一変した。英、独、仏、露の各国が欧州戦線に全力を注ぎ、アジアを顧みる余裕を失ったところから、日本はこの間に中国を支配下に置こうと図った。【(1)】を大義名分として、日本はドイツに宣戦を布告し、ドイツが保有していた山東省の権益を手中にしようとして省都済南を占領、青島を陥落させた。(A) これを既成事実として、日本政府はかねてからの要求をまとめて中国に提出した。

要求の内容が報道されるや、中国国内には亡国の危機感が拡がり、やがて、全国的に日本製品ボイコット、愛国貯金(日中開戦に備えて武器購入資金を拠出する)などの民族運動が拡大した。

1915年末には、共和制廃止、立憲君主制への移行が決定され、袁世凱が直ちに皇帝に推戴された。時代に逆行するこの強引な動きは内外の反発を招き、帝政反対を掲げた蜂起が起こる中、袁世凱は悲憤のうちに病死した。彼の死によって、【(7)】を頭とする安徽派と【(4)】(後には曹錕、呉佩孚ら)の直隸派の二つに大きく分かれ、両派が暗闘を繰り返すいわゆる【(2)】割拠の状況もたらされた。袁世凱という強力な中心を失ったため、両派は何れも全国を支配するまでの力を持たず、安徽派が日本の支援を受け、直隸派は英米を後ろ楯とするなどそれぞれ列強と結びつき、互いに対立抗争が続いた。

一方、1919年1月、連合国代表が集まったパリ講和会議では、ヨーロッパでの民族自決権が認められ、【(3)】を中心とするヴェルサイユ体制が成立した。ヴェルサイユ体制はアジア太平洋地域の【(4)】とともに1920年代の国際秩序を形成した。

この間、アジアでは、近代化を推進して、欧米列強に対抗しようとする動きが強まり、1917年の【(5)】に鼓舞されて、自力解放と独立をめざす民族運動、社会運動が台頭した。

中国では、1921年、【(6)】の支援によって、【(7)】を指導者とする中国共産党が結成された。一方、孫文も、国民党の強化をめざしていたソ連の援助を受け入れ、1924年国民党を改組して党組織の近代化を図るとともに、(B) 共産党員が党籍を持ったまま個人資格で国民党に入党することを認めた。1925年7月、国民党は広州で国民政府を樹立し、翌年には、【(8)】率いる国民政府軍が中国統一をめざし【(7)】を開始した。だが、次第に、国民政府内には、大衆運動の拡大をめざす共産党員ら左派とこれを警戒する右派との対立が深まり、【(8)】は1927年4月、【(8)】を起こして共産党を弾圧した。(C) 共産党は、1930年代にかけて、その活動の舞台を都市から農村へと移していった。

設問1 (1)～(8)に適語を記せ。 設問2 (7)～(8)に人名を記せ。

設問3 (A) (B)の事件名を記せ。 設問4 Cについての正誤問題(省略)